

豊道春海先生作品展

開催 東海大学付属図書館  
後援 瑞雲書道会

「ぶんどうしゅんかい豊道春海先生作品展」

題字  
豆  
子  
甲  
水  
之  
氏

豊道春海先生作品展

開催 東海大学付属図書館

後援 瑞雲書道会

開催日 平成三十二年十一月

「瑞雲書道会寄贈 豊道春海先生作品展」にあたって

豊道春海先生（ぶんどう しゅんかい 一八七八―一九七〇）は明治から昭和にかけての書家で、天台宗の僧侶でもありました。特に書家としては、日展に書道部門を新設したこと、戦後の学校教育に毛筆習字を復活させるのに尽力したこと、日中友好に寄与したことなど、今日の書壇の礎を築かれた方であります。

大正三（一九一四）年に、大正博覧会に出品した行書千字文で最高賞銀牌を受け、同年瑞雲書道会（ずいぶんしょどうかい）を結成しました。

平成十九年七月に瑞雲書道会より、同会所蔵の豊道春海先生の作品・拓本・寄せ書きなど三十二点を東海大学付属図書館に寄贈いただきました。

今回は、東海大学でこれまで所蔵していた春海先生の作品とあわせ四十点を展示いたします。近代を代表する書家である春海先生の多くの墨跡を展示できることは、大変喜ばしいことであります。学生、教職員、一般の方々にも観賞していただければ幸いに存じます。

今回の展示会にあたり、瑞雲書道会の皆様には多大なご支援・ご指導を頂きましたことに感謝申し上げます。

平成二十二年十一月一日

東海大学付属図書館長 田中康夫

「豊道春海先生 作品展」に寄せて

この度は、歴史と伝統ある瑞雲書道会の生みの親、豊道春海先生の「書」が、寄贈先である東海大学付属図書館の協力により「作品展」として開催され、一般公開されますことは誠に喜ばしいことであります。

豊道先生は、わが国の書道の発展と普及・振興はもとより、「書」を通じた国際親善などに尽力され、今日の近代書壇の礎を築かれた方であります。

「書」は古くからその人の心を赤裸々に現すものだと言われてきました。それだけに「書」を通じて人格の陶冶をはかることは、今のこうした時代であるが故に最も重要な課題の一つであると考えます。

今回、この「作品展」が大学という日本の将来を担う青年達が集う場所で開催されますことは、大変大きな意義があります。今回の「作品展」を契機として「書道」に対する興味や理解が深まり、次代の書道家の育成に繋がる場としての役割を果たすことが出来ればと祈念する次第です。

この機会に、豊道先生の作品がより多くの人々にご鑑賞いただき、「書道」に関する理解が深まれば大変幸甚に存じます。

平成二十二年十一月一日

瑞雲書道会会長  
東海大学総長

松前達郎

豊道春海略年譜

年号 西暦 年令 記事

明治

十一年 一八七八 一歳 九月一日栃木県那須郡佐久山町に川上茂平の

三男として出生。幼名寅吉。

十二年 一八八八 十一歳 上野東叡山の春性院住職篠原守慶のもとで修業。

上野池之端青海小学校に通学。

十三年 一八九〇 十三歳 篠原守慶大僧正につき得度出家受戒、坊号を常

応坊慶中と改める。次いで牛込行元寺妙澄尼に

乞われて豊道家を継ぐ。

十四年 一八九一 十四歳 西川春洞門に入り書道を学び始める。

十八年 一八九五 十八歳 大日本選書奨励会展へ初出品（褒状）

三十三年 一九〇〇 二三歳 浅草華徳院住職、行元寺を兼務。妻たつ子（一

七歳）と世帯を持つ。

三十四年 一九〇一 二四歳 下谷東亜女学校の書道教諭となる。

大正

三年 一九一四 三七歳 大正博覧会で行書千字文が最高賞銀牌を受ける。

十一月、瑞雲書道会を創設。

十一年 一九二二 四五歳 平和博覧会審査官、天台宗中学教諭。西川春洞

記念碑揮毫。

十三年 一九二四 四六歳 日本書道作振会を創設、専ら書道の振作発展に

勤める。

昭和

五年 一九三〇 五三歳 日本書道作振会と戊辰書道会とを合流、泰東書

道院を創設。

十二年 一九三七 六〇歳 日本美術協会幹事審査委員となる。

十九年 一九四四 六七歳 瑞雲書道会三十周年記念に正義の二大字大幅を

日本・ドイツ・イタリア三国に頒ち、ヒットラ

ー首相より謝状を受ける。

二十二年 一九四七 七〇歳 三月、書道教育振興協議会委員長、七月、帝国

芸術院会員。

二十三年 一九四八 七一歳 日展に書道部五科新設、日展理事就任。

二十五年 一九五〇 七三歳 全日本書道教育協会会長に推される。

昭和二十六年より、小・中学校の国語科の中に於

いて毛筆習字を必修科目とする実施決定がなさ

れ復活が実現。

三十三年 一九五八 八一歳 第一次訪中日本書道代表団団長として大陸各地

を歴訪。社団法人新日展発足、常務理事となる。

三十六年 一九六一 八四歳 日展顧問となる。この頃より書道会館建設運動

に力を注ぐ。

三十七年 一九六二 八五歳 二月、京都山科勸修寺宮門跡より法印号を贈ら

れる。七月、天台宗大僧正に補せられる。

三十九年 一九六四 八七歳 中国招聘豊道春海個展開催の為、北京・広州・

上海を巡回展。十一月、勳三等瑞宝章叙勲。

四一年 一九六六 八九歳 瑞雲書道会を再興し、第一回展を東京都美術館

で開催。

四二年 一九六七 九〇歳 文化功労者に顕彰される。

四五年 一九七〇 九三歳 九月二六日、遷化。法号は「書禪如院大僧正春海

慶中大和尚」。従三位勳二等を追叙される。

享年九十三歳。

豊道春海先生肖像画

林東文画

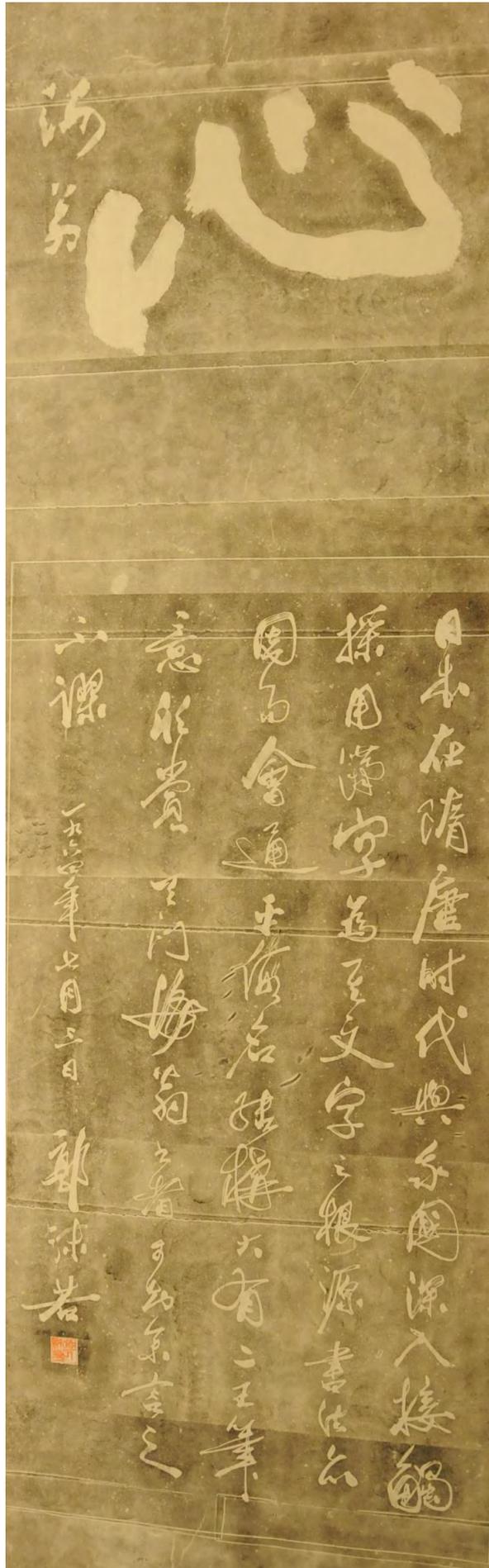


この肖像画は中国人の肖像画家、林東文が昭和三十一年八月に先生の写真を基に画いたもの。

寸法 111×42cm

心 海翁（題字）  
 日本在隋唐時代與我國深入接觸  
 採用漢字為其文字之根源書法亦  
 固多會通平假名結構大有二王筆  
 意欣賞天門海翁書者可知余言之  
 不謬  
 一九六四年七月三日 郭沫若

心 海翁（題字）  
 日本は隋唐時代に在りて我國と深く接觸に入  
 り、漢字を採りし、その文字の根源を為（な）  
 し、書法も亦（ま）た固（もと）より多く會通  
 す。平假名の結構（けつこう）大いに二王の筆  
 意あり。天門海翁の書を欣賞する者は余（よ）  
 の言（げん）の謬（あやま）た不（ざ）るを知  
 る可し。  
 一九六四年七月三日 郭沫若



注

二王||東晉、王羲之・王獻之、父子のこ  
 と、共に書聖と仰がれる。  
 會通||十分に理解すること、結構||文字  
 の形の組みたてのこと、欣賞||よろこびほ  
 めること。  
 郭沫若先生は中国政府の要人であり、書  
 に精通した著名書家であった。  
 題字「心」は海翁の絶筆である。

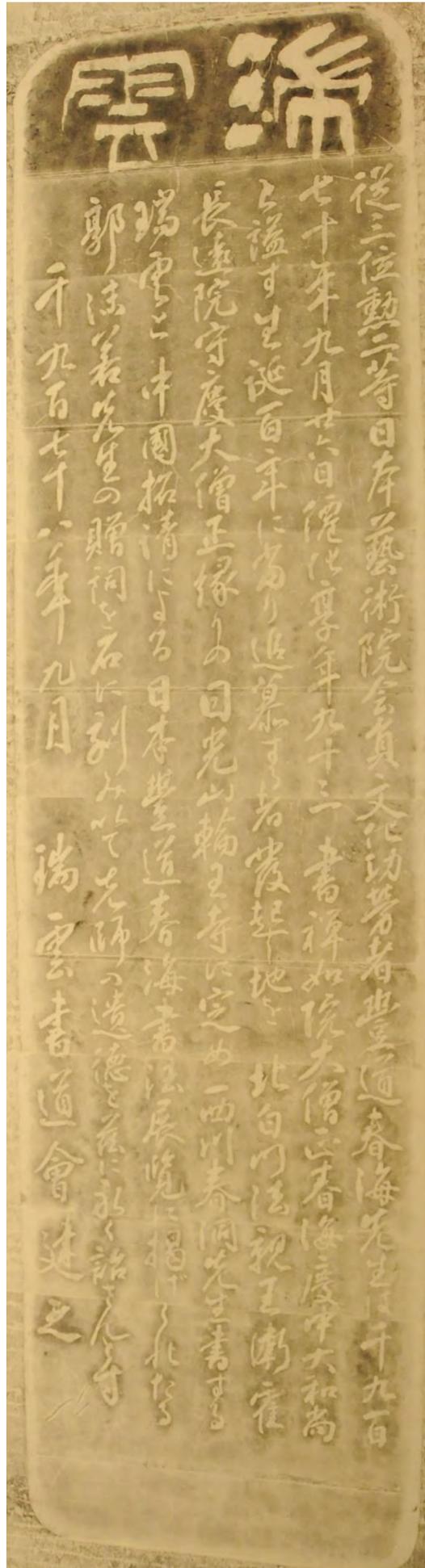
寸法 645×178cm(拓本 碑文表)

瑞雲（題字）  
 從三位勳二等日本芸術院会員文化功  
 者豊道春海先生は千九百〇七年九月  
 廿六日僊化享年九十三書禪如院大僧正  
 春海慶中和尚と諡す生誕百年に當  
 り追慕する者發起し地を北白川法親王  
 衛霍／長遠院守慶大僧正縁りの日光山  
 輪王寺に定め西川春洞先生書する／  
 法展覧に掲げられたる日本豊道春海書  
 贈詞を石に刻み以て先師の遺徳を茲に  
 永く詒さんとす  
 千九百七十八年九月 瑞雲書道会建之

瑞雲（題字）  
 從三位勳二等、日本芸術院会員、文化功  
 者、春海先生は、千九百〇七年九月廿六日僊  
 化、享年九十三書禪如院大僧正春海慶中、和  
 尚と諡（おくりな）す。生誕百年に當たり、  
 追慕する者發起し、地を北白川法親王衛霍（  
 えいかく）輪王寺に定め、西川春洞先生書する  
 の日光山、中国招請による、郭沫若先生書法  
 展覧に掲げられたる先師の遺徳を茲（ここ）に  
 刻み、以て先師の遺徳を茲（ここ）に永く詒  
 （のこ）さんとす。  
 千九百七十八年九月 瑞雲書道会之を建る

注

衛霍 守護役名。  
 この碑文は、瑞雲書道会本部長・豊道さと  
 女史撰、同副会長・高木双吉盧書、題字  
 は西川春洞先生書（集字）。



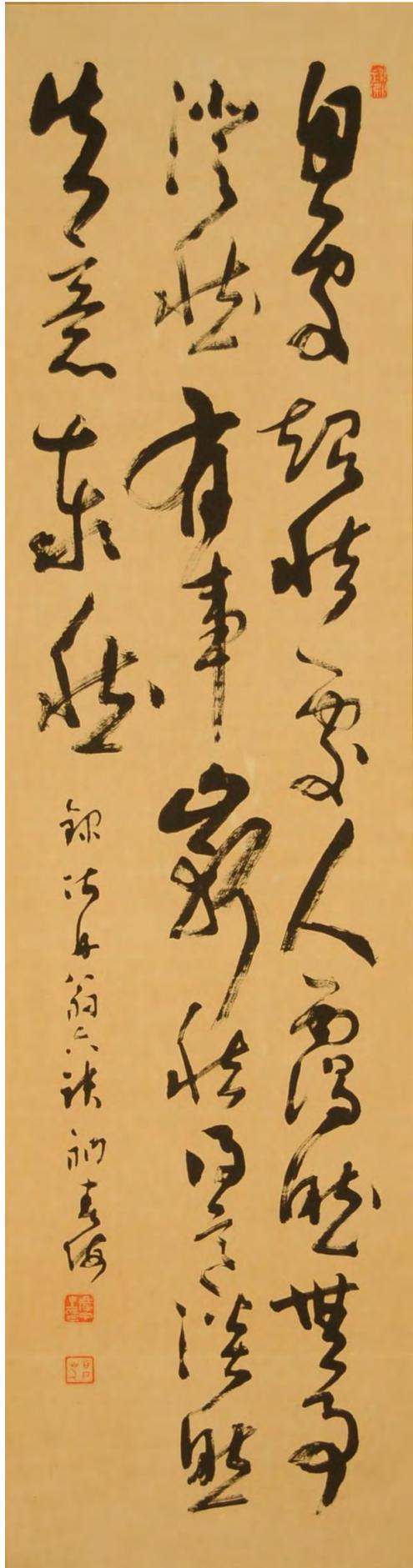
寸法 645×178cm(拓本 碑文裏)

自處超然 處人羈然 無事  
 澄然有事 斬然得意 淡然  
 失意泰然 錄海舟翁六訣 衲春海

自ら超然として處（お）り、人は羈然（あいぜん）として處り、無事に澄然（ちようぜん）、有事に斬然（ざんぜん）、得意に淡然、失意に泰然、海舟翁六訣（けつ）を録す。衲（だふ）春海

注

羈然 雲のたなびく様子、斬然 厳しさを表すことば、淡然 さらりとさっぱりした心境、泰然 落ち着いて物事に動じない。衲 僧衣、転じて僧のこと。

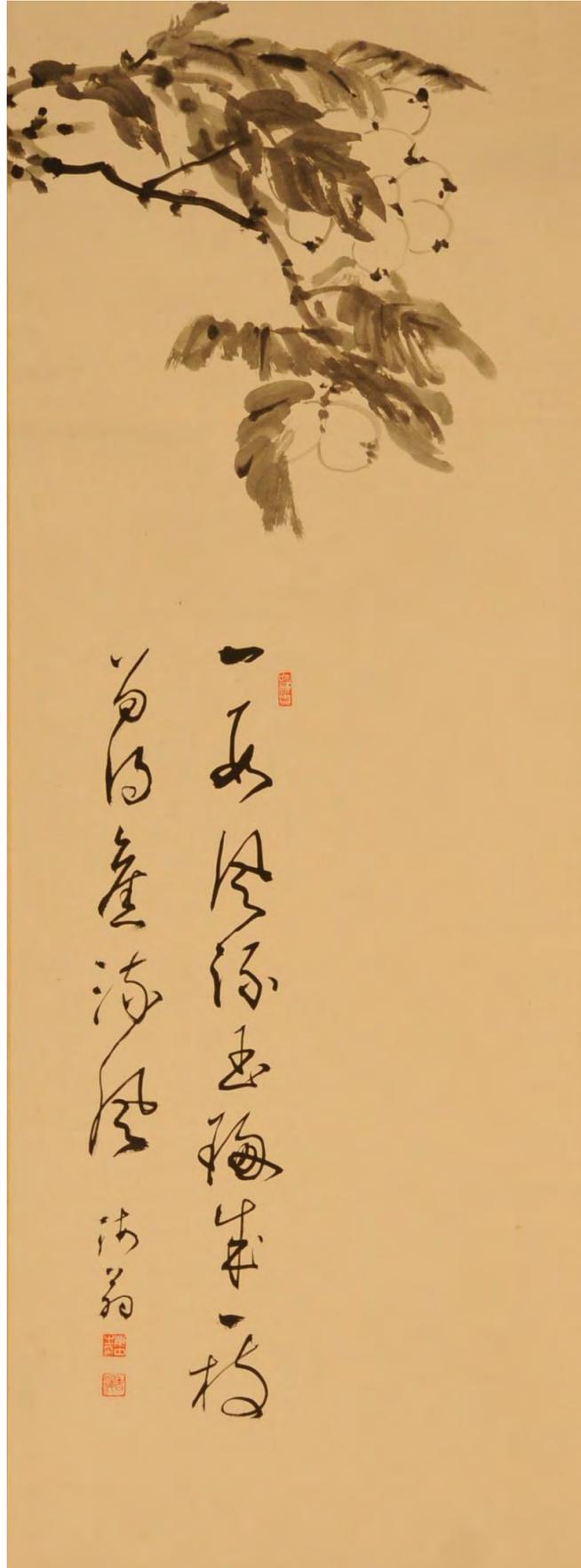


寸法 185×60cm  
 松前記念館

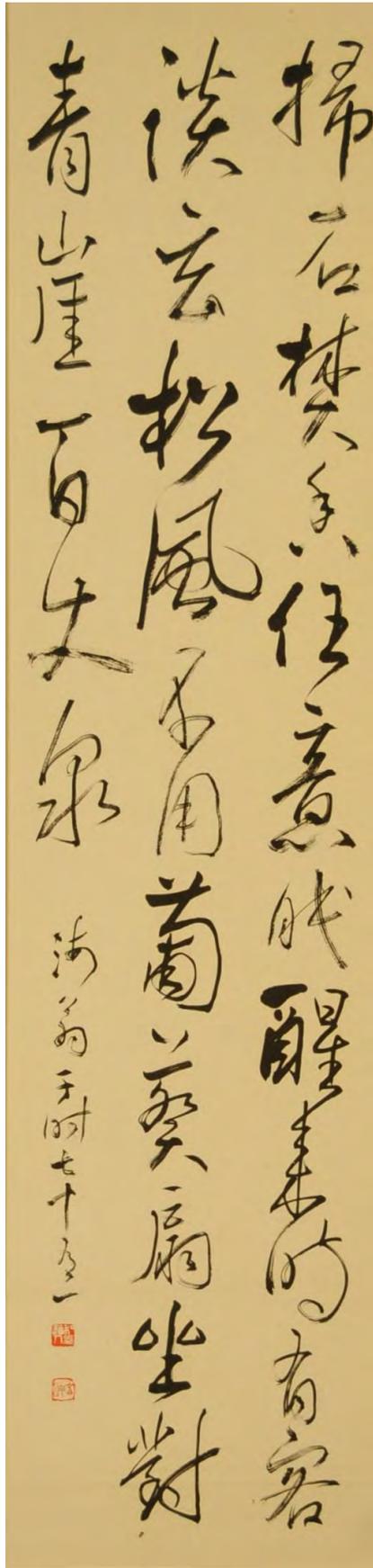
一段風流玉琢成一枝  
留得舊流風  
海翁

一段の風流れ、玉琢（ぎよくたく）成り、  
一枝に留め得たり、旧流の風  
海翁

注 玉琢 玉を磨くこと。



寸法 83.5 × 30.5cm



掃石焚香任意眠醒來時有客  
 談玄松風不用蒲葵扇坐對  
 青山崖百丈泉 海翁于時七十有一

石を掃(は)き、香を焚(た)き、意に任せて眠り、  
 醒(さ)め来る時、客有りて玄を談じ、松風に蒲葵  
 (ほき)の扇を用不(もちい)ず、坐して青山(せい  
 がい)百丈の泉に対す。  
 海翁于時(ときに)七十有一

注

玄||奥深いこと、蒲葵の扇||ぶどうや  
 あおいの葉の扇。

寸法 168×50cm  
 松前記念館

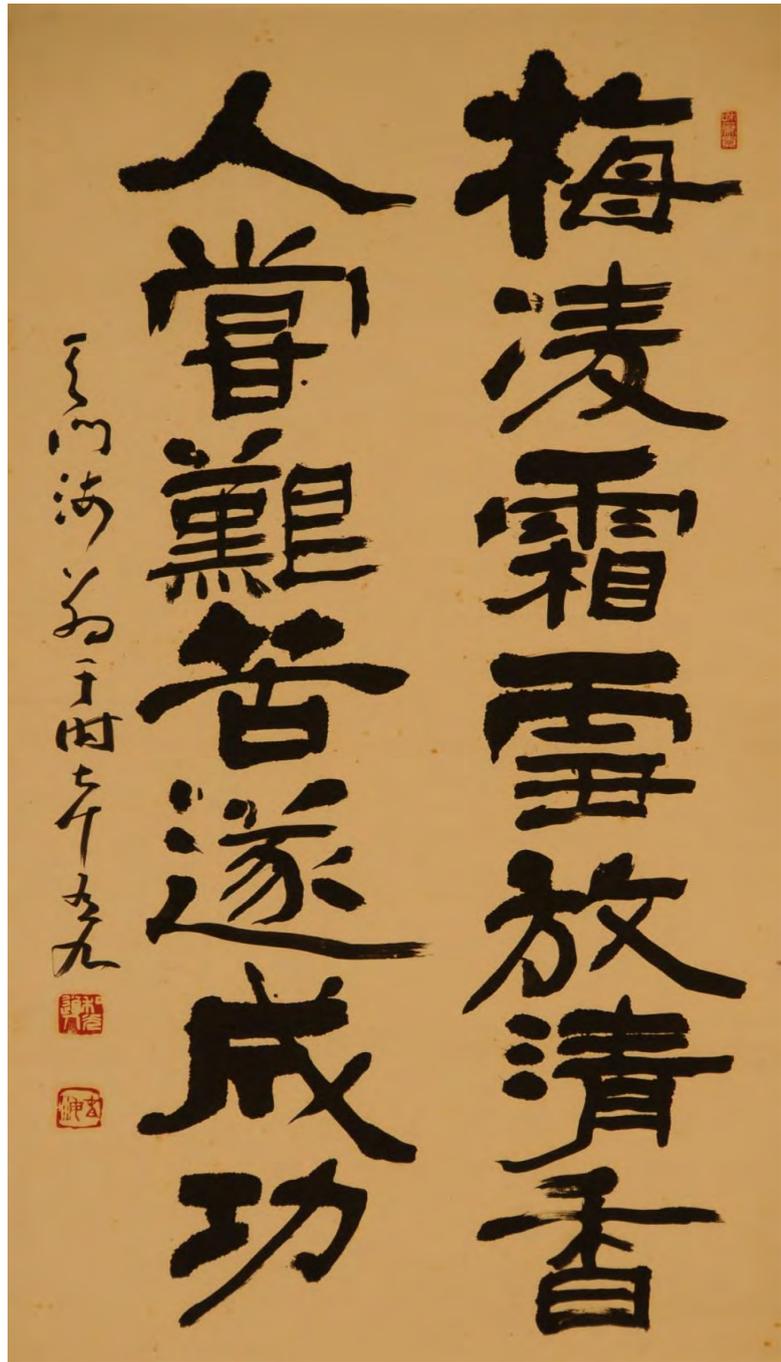


茶鼎松濤翻雪浪竹簾  
 華雨涌山涼  
 昭和己丑新正試筆  
 海翁于時七十有二

茶鼎（さてい）松濤（しようとう）、雪浪を翻（ひるが）  
 えし、竹簾（ちくれん）花雨、山泉を涌（わ）かす。  
 昭和己丑（つちのと・うし）二十四年（新正試筆）  
 海翁于時（とき）七十有二

注 華||花、涼||泉。  
 隸書の朱墨書

寸法 160×40cm  
 松前記念館



梅凌霜雪放清香  
 人嘗艱苦遂成功  
 天門海翁于時七十有九

梅は霜雪を凌(しの)ぎて清香を放ち、人は艱苦  
 (かんく)を嘗(な)めて成功を遂(と)ぐ。  
 天門海翁于時七十有九

注  
 艱苦|| 悩み苦しむこと、天門|| 天台宗僧  
 の意味。

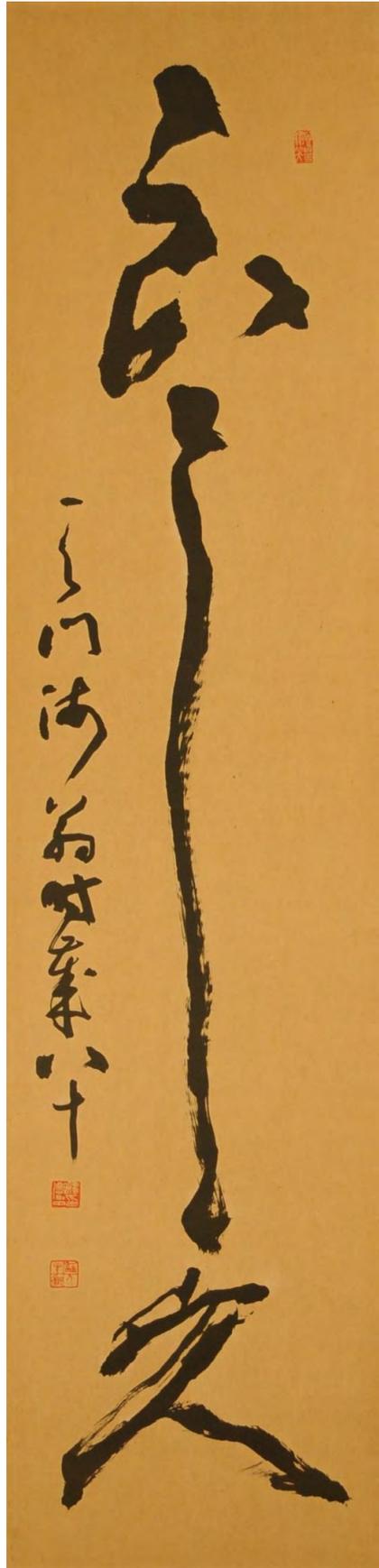
寸法 68×34.5cm

良之久  
天門海翁時歳八十

良之久(らしく)  
天門海翁時に歳八十

注

良之久の之を久しく良とす、とも読み、など  
らしく：女らしく：政治家らしさ、など  
とそれぞれ：の立場でのふさわしさをいう意味  
深いことば。



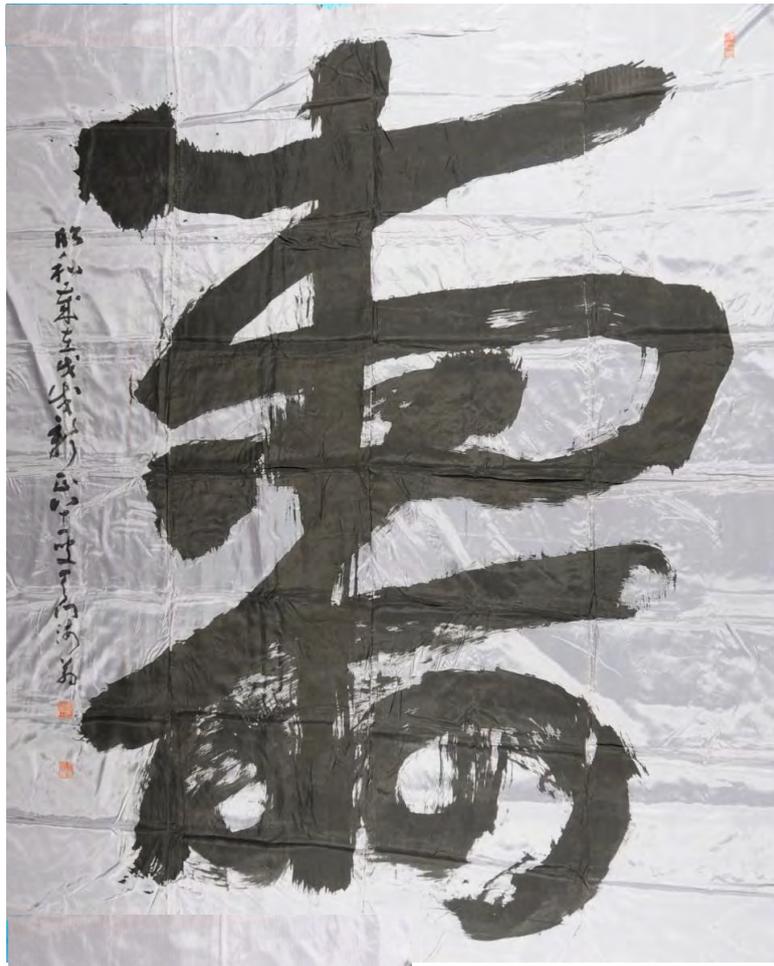
寸法 180×43cm  
東海大学

壽

昭和歳在戊戌新正八十一 叟天門海翁

壽

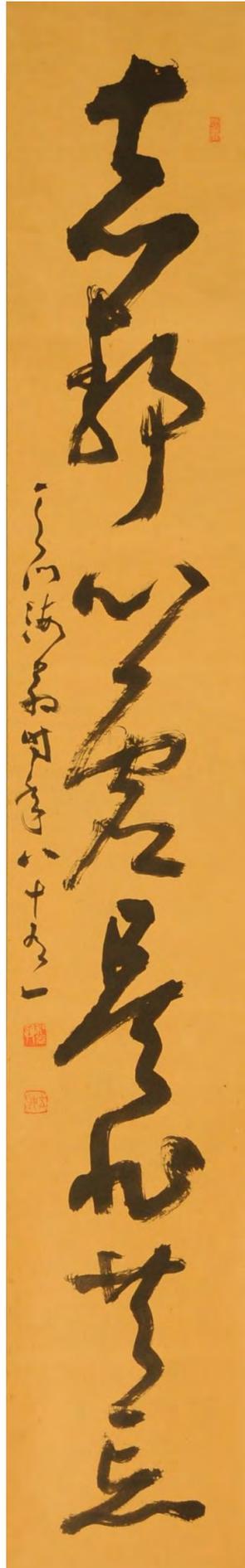
(大字)



寸法 410×360cm(布書き)

注

この書は俗に壽百体といわれるほどの、行書体の一つ。



志  
静心虚是非共忘  
天門海翁時年八十有一

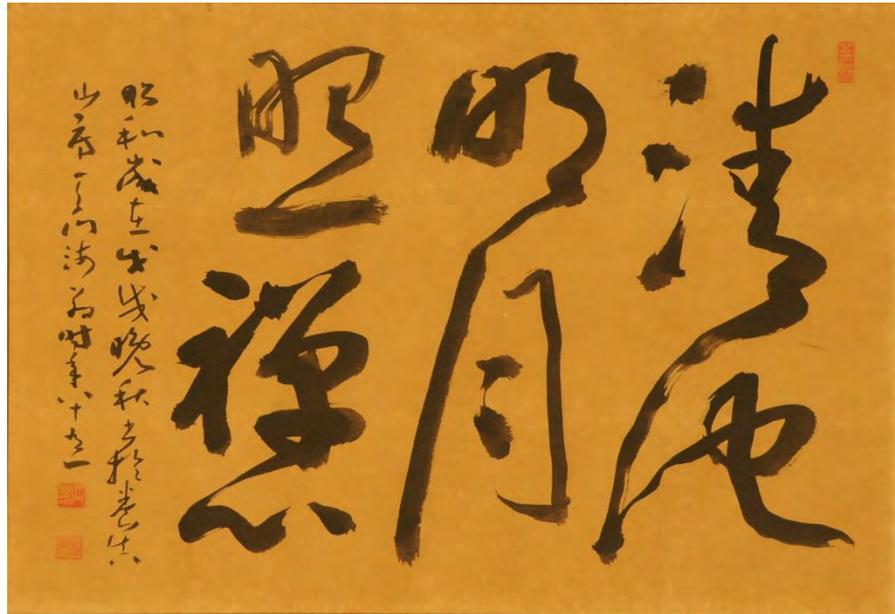
志  
ひ) 共  
に忘る

(こころざし) 静かに心虚(むな)しく、是非(ぜ

天門海翁時に八十有一

注 是非(ぜひ) || 良し悪しの判断。

寸法 132 × 20.5cm



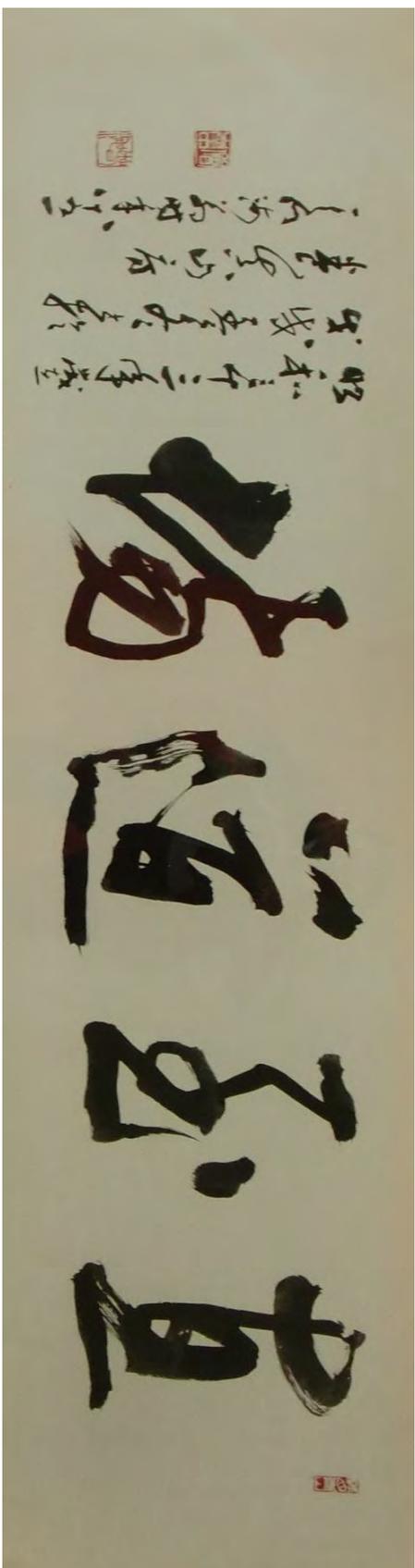
寸法 41 × 52.5cm

清池 明月 照禪心  
 昭和歲在戊戌晚秋書於養真山房天門海翁時年八十有一

清池 明月 禪心を照らす。  
 昭和、戊戌（つちのえ・いぬ）三十三（）  
 晩秋、養真山房に於いて書す。年八十有一  
 天門海翁時に年八十有一

注

年令に八十有一と書くのは、古来稀とされ  
 た七十歳以後は、重みを出す意味で〇〇歳  
 とまだ一つ、有一、又一と記すことが多い。



寸法  
73 x 236cm  
望星学塾

直至道場  
昭和三十三年歳在戊戌孟冬書於養真  
山房 天門海翁時年八十有一

直至道場(じきしどうじょう) 直(ただ)ちに  
道場に至る。

昭和三十三年歳在戊戌孟冬、養真山房に於  
いて書す。 天門海翁時に年八十有一

注 修行に励むこと。  
孟冬 孟冬のはじめ(十月の異名)。



寸法

32.5 x 130cm

清修和梁  
 八十二叟天門海翁

壽  
昭和歲在辛丑新正八十四叟春海龍壽

壽

(大字 行書)  
昭和歲在辛丑(かのと・うし 三十六年)新正  
八十四叟春海龍壽



寸法 455 × 276cm



寸法97 x 287cm

東天紅  
天門海翁題

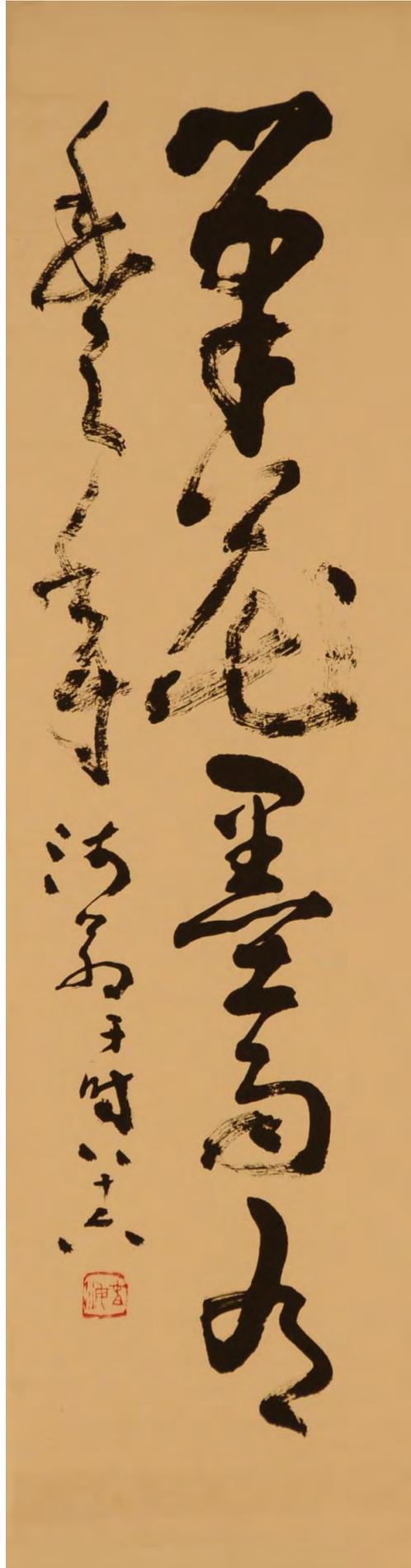
東天紅(とうてんこう)  
天門海翁題

注 東の空が赤らむ、夜明け。中国では鶏の鳴き声とする。上野中華店「東天紅」は先生の筆で、その折に書かれた一枚かと思われる。



雷神  
昭和三十一年壬寅六月二十日  
八十五叟天門海翁書

寸法 710×460cm

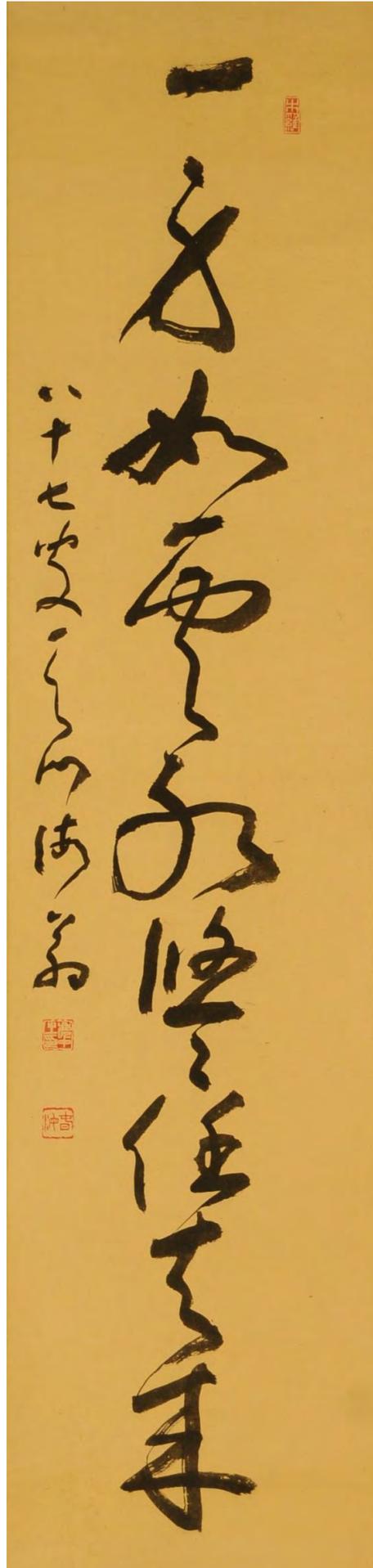


筆花墨雨有  
海翁于時八十六  
豐年

筆花墨雨、豐年有  
海翁于時八十六  
り

出典等不明

寸法 66×18cm



一身如雲水悠々任去來  
八十七叟天門海翁

一身雲水の如く、悠々去來に任（まか）す。  
八十七叟天門海翁

注 行雲流水と共に身を任せる僧の修行。

寸法 130×30.5cm

佛心  
八十一如  
八十七叟  
天門海翁

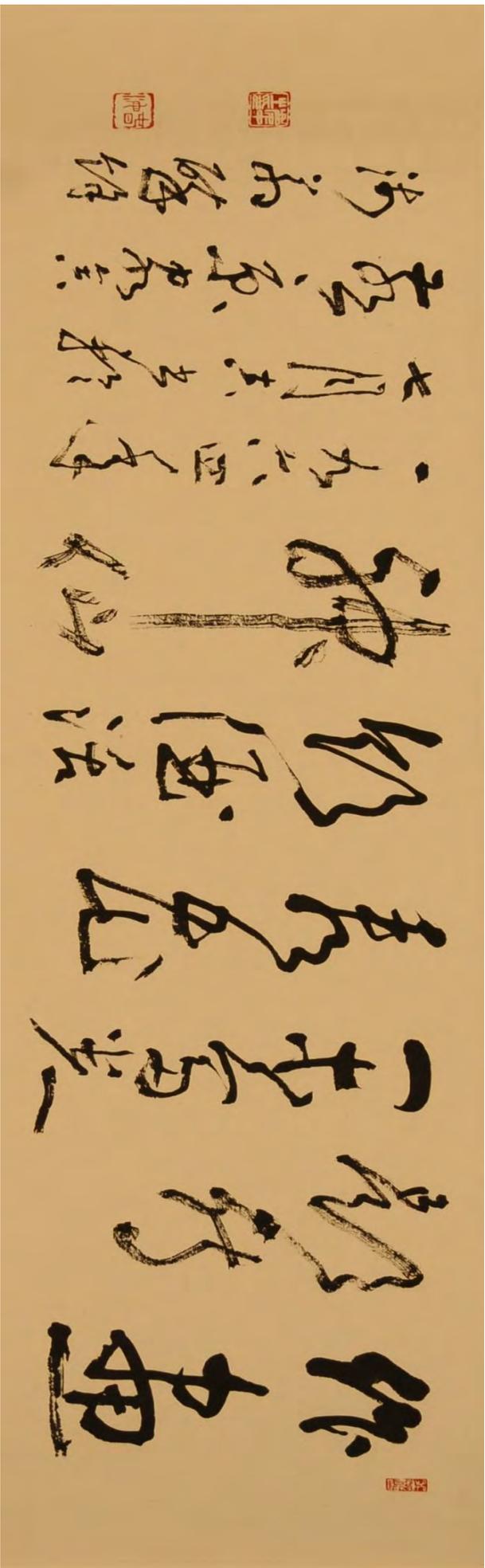


寸法 35×41cm

仏心一如（ぶつしんいちによ）  
八十七叟  
天門海翁

注

身も心も仏と一つになること。  
竹筆による書と思われる。



寸法 31 x 112cm

神作  
仙書

題詩 閑富貴 看花 飲酒活

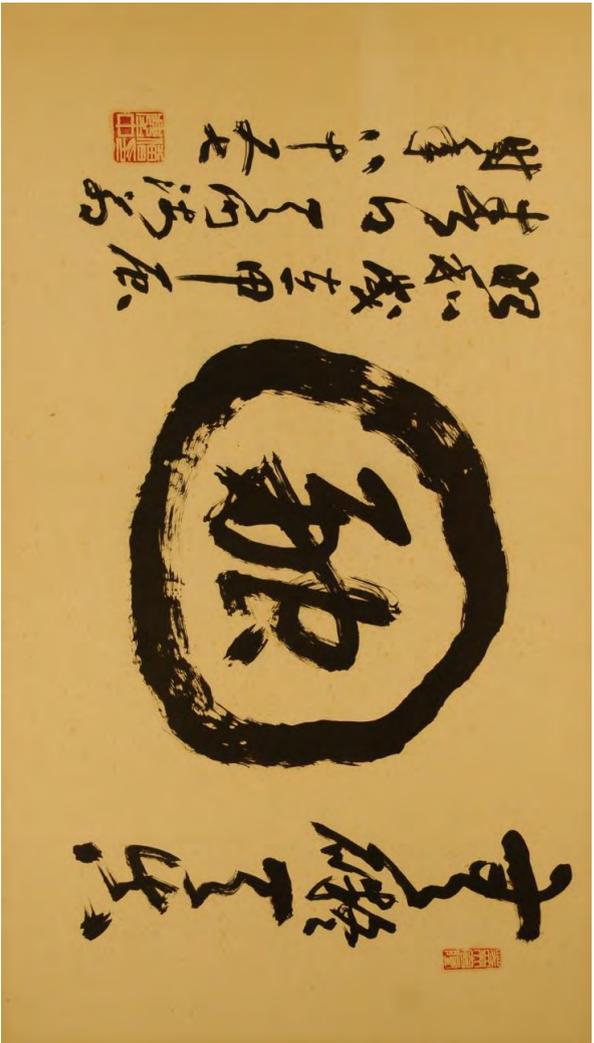
一九六四年七月吉書於 燕京客舍  
海翁醉餘

注

燕京客舍(北京の宿舎)で、酔い快く、  
自身の心境を吐露された作と思わ  
れる。

海翁醉餘

画を作(そく)し詩を題するに閑富を賞ひ、花  
を看(み)、酒を飲んで神仙を活かす  
一九六四年七月吉、燕京客舎に於いて書す

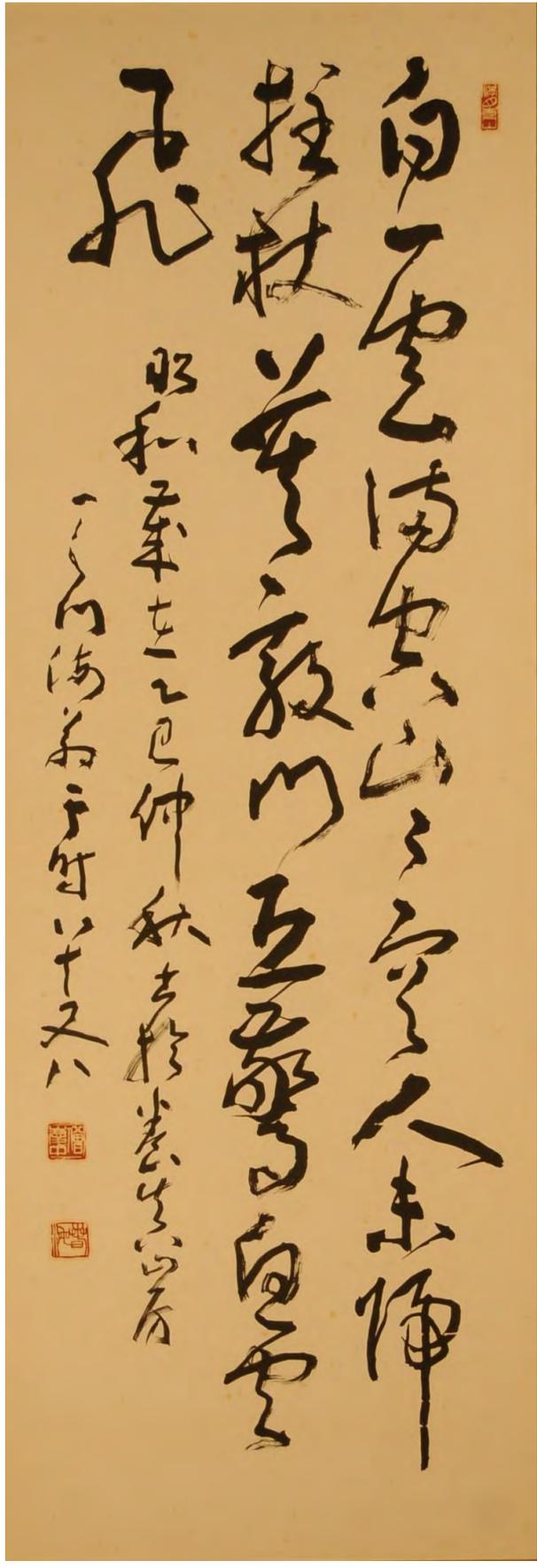


寸法 90×160cm  
松前記念館

無礙天真  
丸に融一字  
昭和歳在甲辰  
春日天門海翁  
時年八十有七

無礙天真(むけてんしん)丸に融一字  
昭和歳在り甲辰(きのえ・たつ  
三十九年)春日天門海翁  
時年八十有七

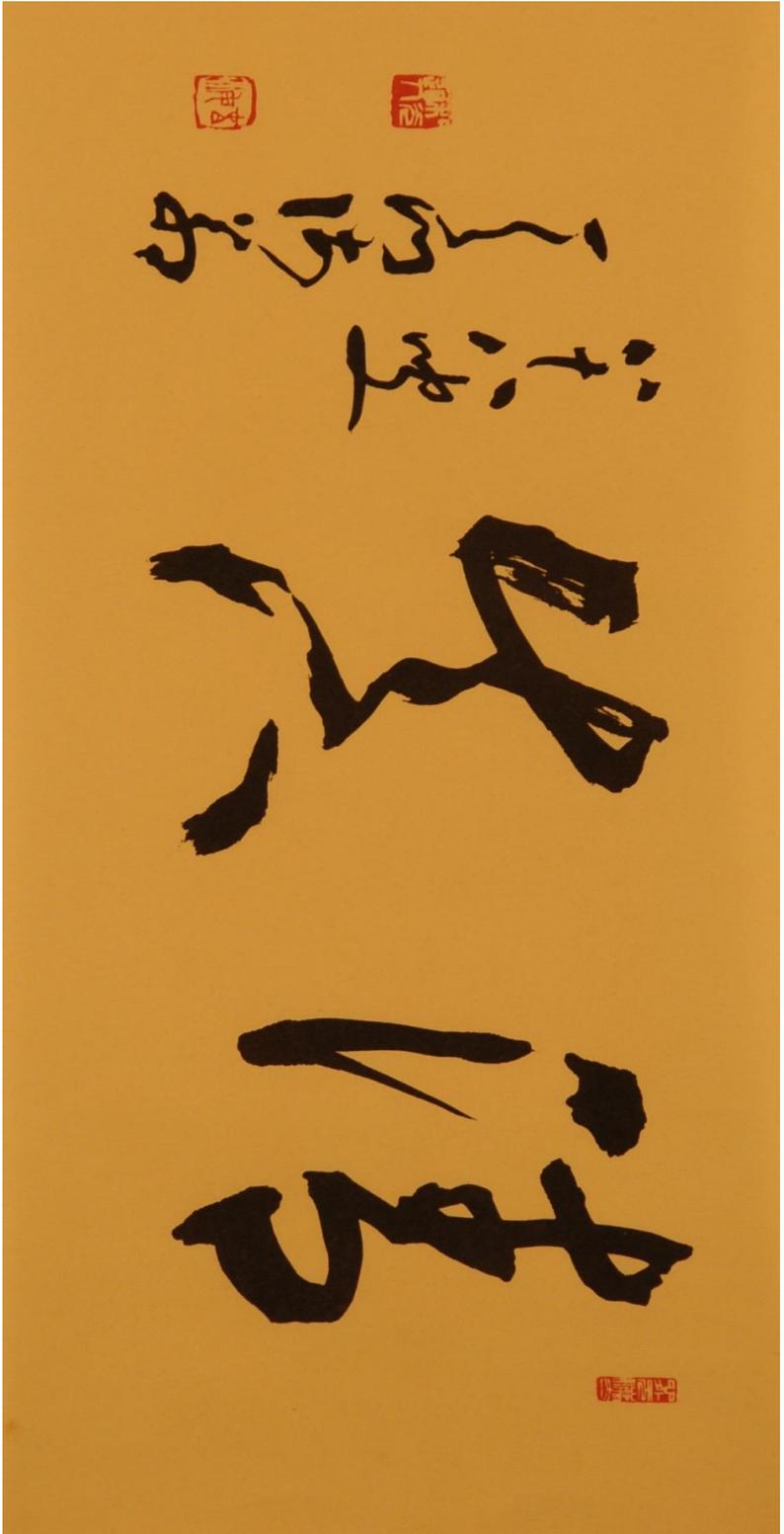
注 大自然のように、穢(さまたげる)も  
の何ひとつ無き心境をいう、纏て丸  
く融けあうの意。



白雲満空山々空人未帰  
 杖莫敲門互驚白雲  
 昭和歳在乙巳仲秋書於養真山房  
 飛杖天門海翁于時八十八

白雲空山に満ちて、山空しく人未だ帰らず、  
 杖、互に白雲の飛ぶに驚く。門を敲（たた）く莫（なか）  
 昭和歳在り乙巳（きのと）み 四十年（仲秋）八  
 月（養真山房に於て書す）  
 天門海翁于時八十八

寸法 174×59cm  
 松前記念館



寸法 26 x 70cm (複製)

清真  
八十八叟 天門海翁

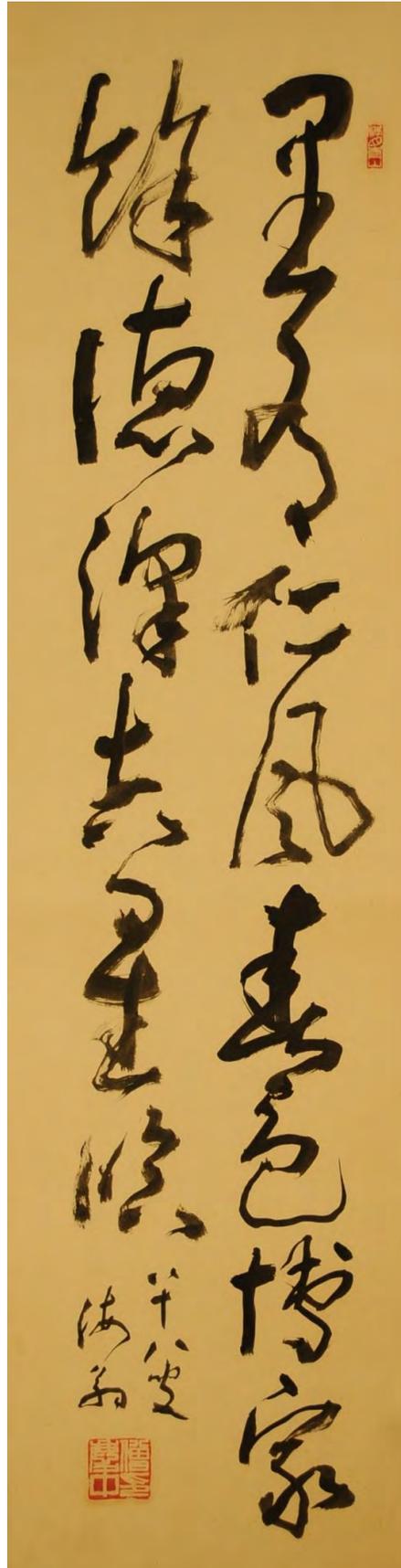
清真(せいしん)  
八十八叟 天門海翁

注 心清らかで正しいこと。  
(李白)

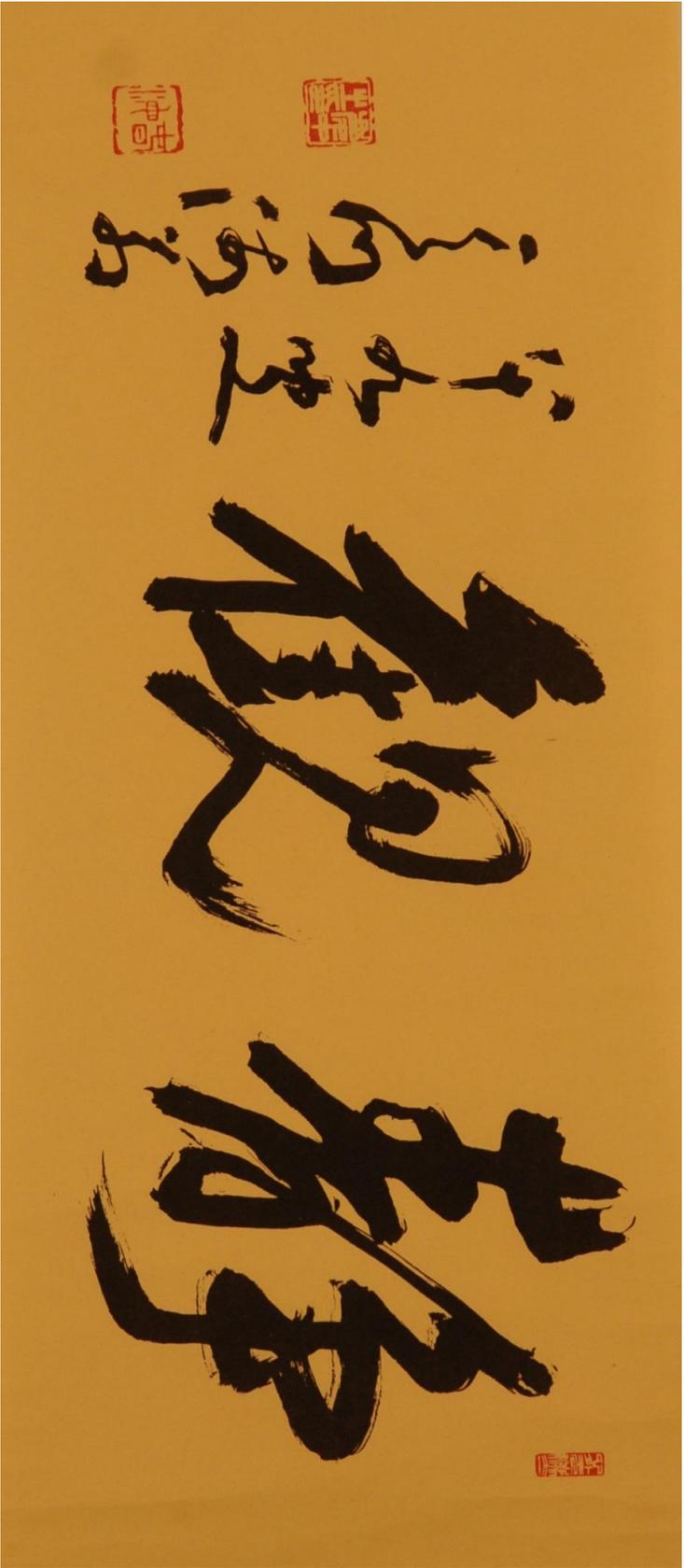
里有仁風春色博家  
餘德澤吉星臨  
八十八叟海翁

里に仁風有りて、春色博（ひろ）く、家に徳澤餘り  
て吉星を臨（のぞ）む  
八十八叟海翁

注 仁風・徳澤は仁徳のすぐれたること。



寸法 185×48cm  
松前記念館

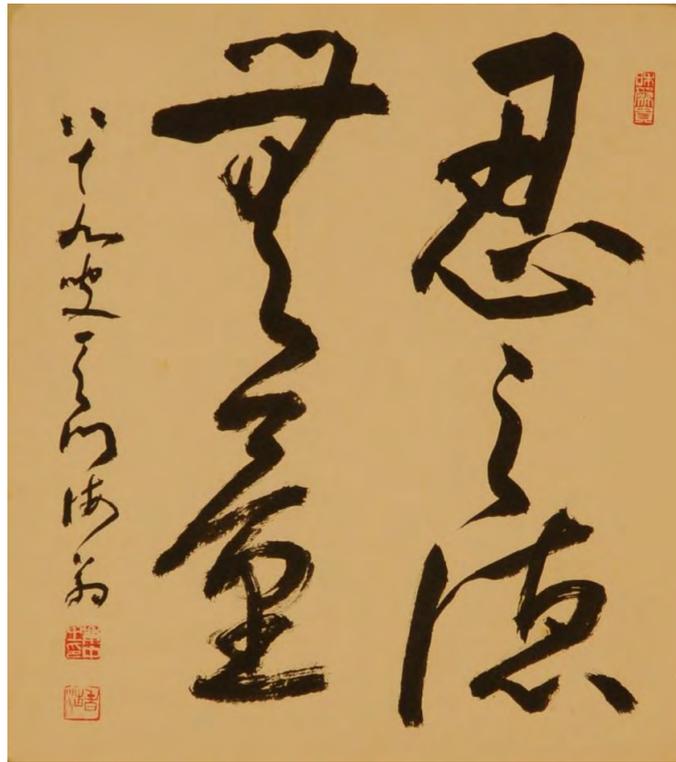


寸法 27 x 73cm (複製)

注 心静かに観察すること。

静観(せいかん)  
八十九叟 天門海翁。

静観  
八十九叟 天門海翁



忍之徳 無量  
八十九叟天門海翁

忍（にん）の徳は無量  
八十九叟天門海翁

寸法 27×24cm

注  
忍耐による徳は計りしれない。

游心至虚  
八十九叟天門海翁

游心至虚（ゆうしん しきよ）  
八十九叟天門海翁

注 心を遊ばせて俗心を留めない。



寸法 113.5 × 26.5cm



寸法  
33 x 87cm

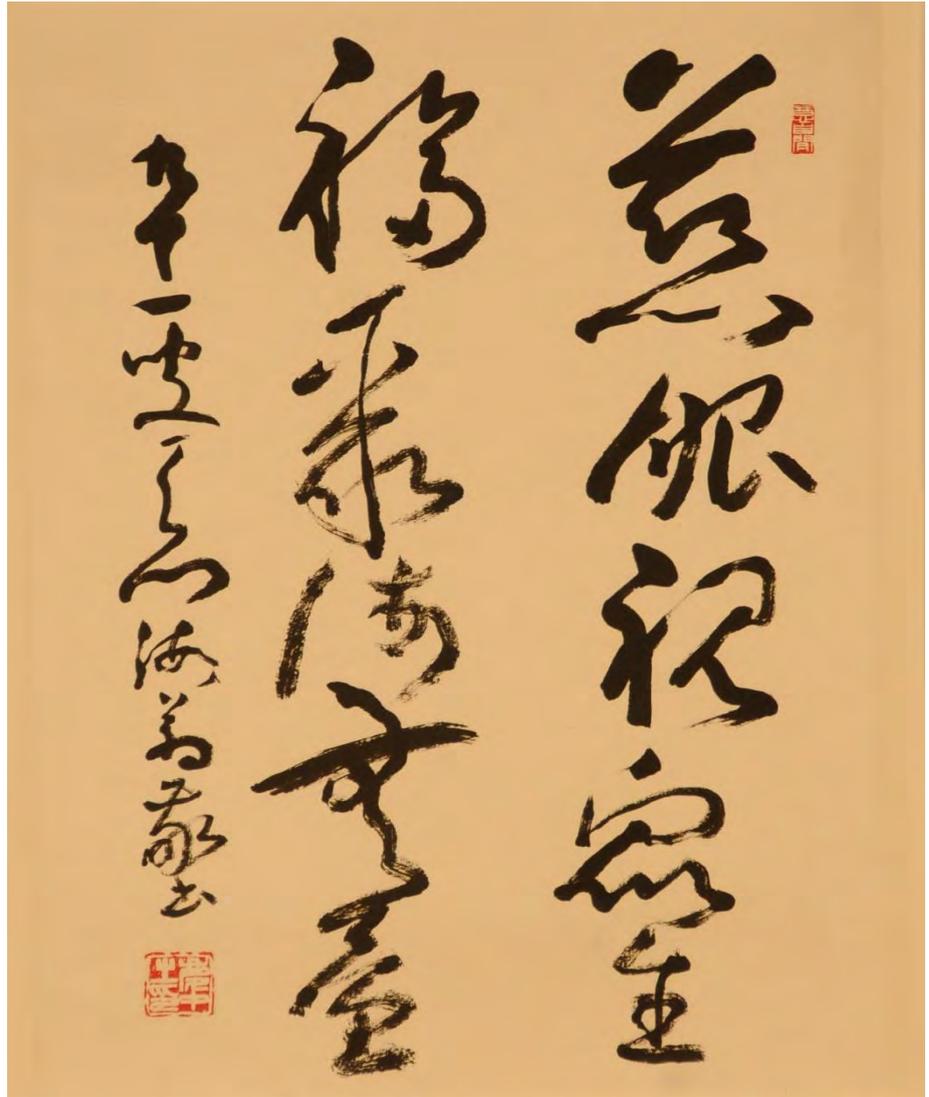
洗心養神  
九十叟  
天門海翁

洗心養神(せんしん  
ようしん)  
九十叟 天門海翁

注 心を洗って精神を強固にする。

慈眼視衆生  
福聚海無量  
九十一叟天門海翁敬書

慈眼（じげん）もて衆生を視（み）、福聚（あつま）  
りて海無量  
九十一叟天門海翁敬書



寸法 45.5×31cm

注

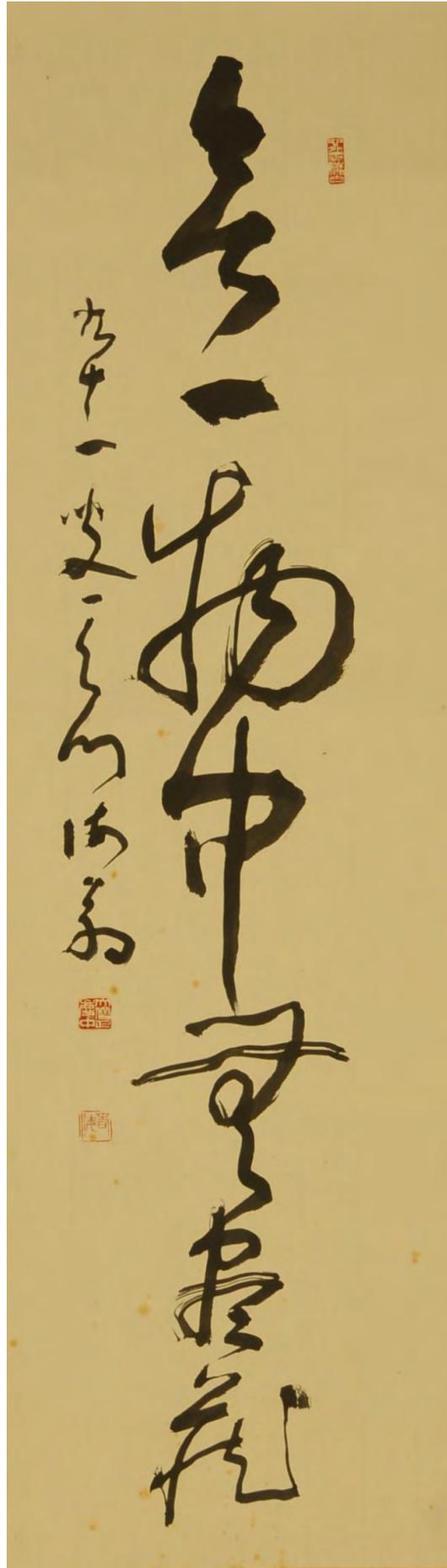
法華經・普門品（ふもんぼん）の句。  
観世音菩薩は慈悲の心で見守つてくださる。  
ので、信仰すれば海水の如く幸せが得られる。

無一物中無盡藏  
九十一叟天門海翁

無一物中（むいちぶつちゆう）無盡藏（むじんぞう）  
九十一叟天門海翁

注

身に何もなくても大宇宙には物が満ち  
蔵（かく）されている。禅語だが、この句の下に「花有り月有  
り楼台有り」と続く句。

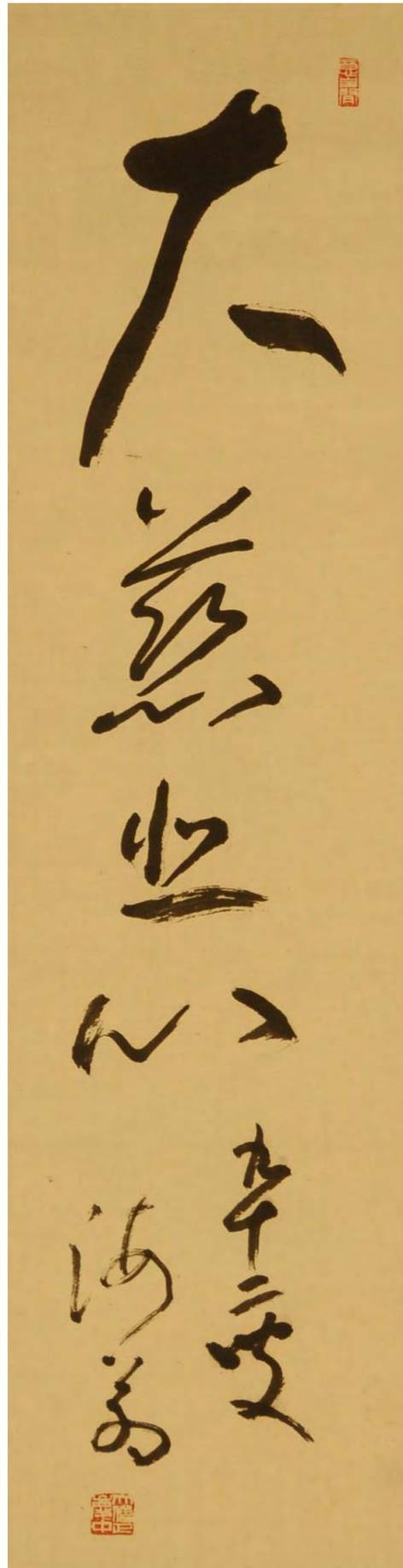


寸法 88×25.5cm

大慈悲心  
九十二叟  
海翁

大慈悲心（だいじひしん）  
九十二叟  
海翁

注  
人をいつくしむ大いなる心。

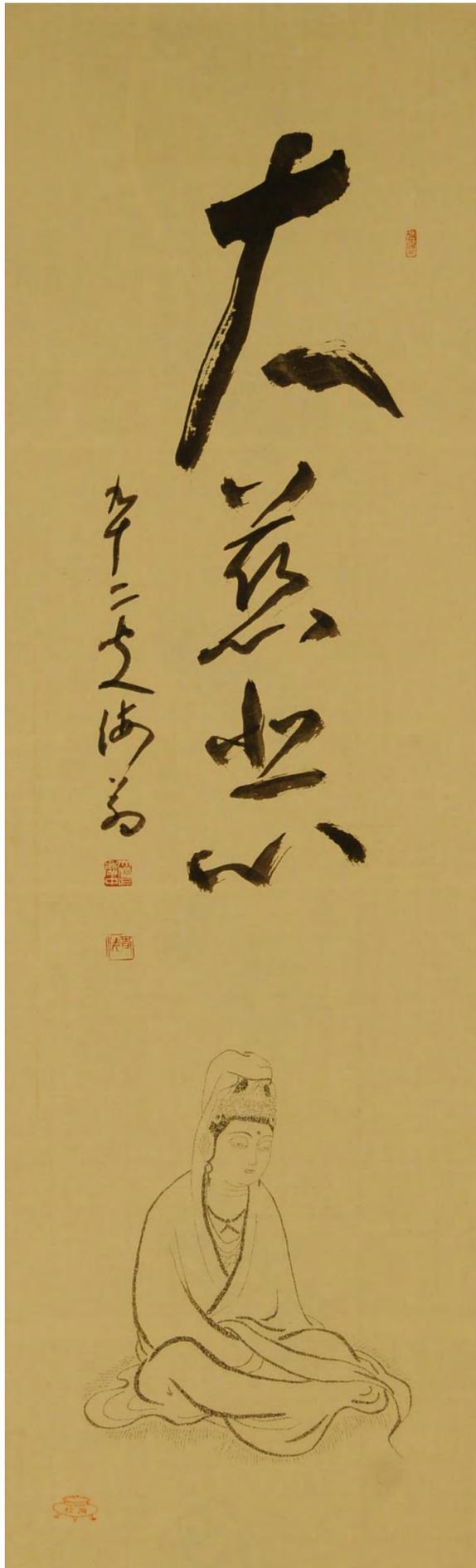


寸法 66.5×17cm

大慈悲心 九十二叟海翁

大慈悲心（だいじひしん） 九十二叟海翁 画入り

注 観世音菩薩の画に題したものの。画の線は小さな文字から成っている。

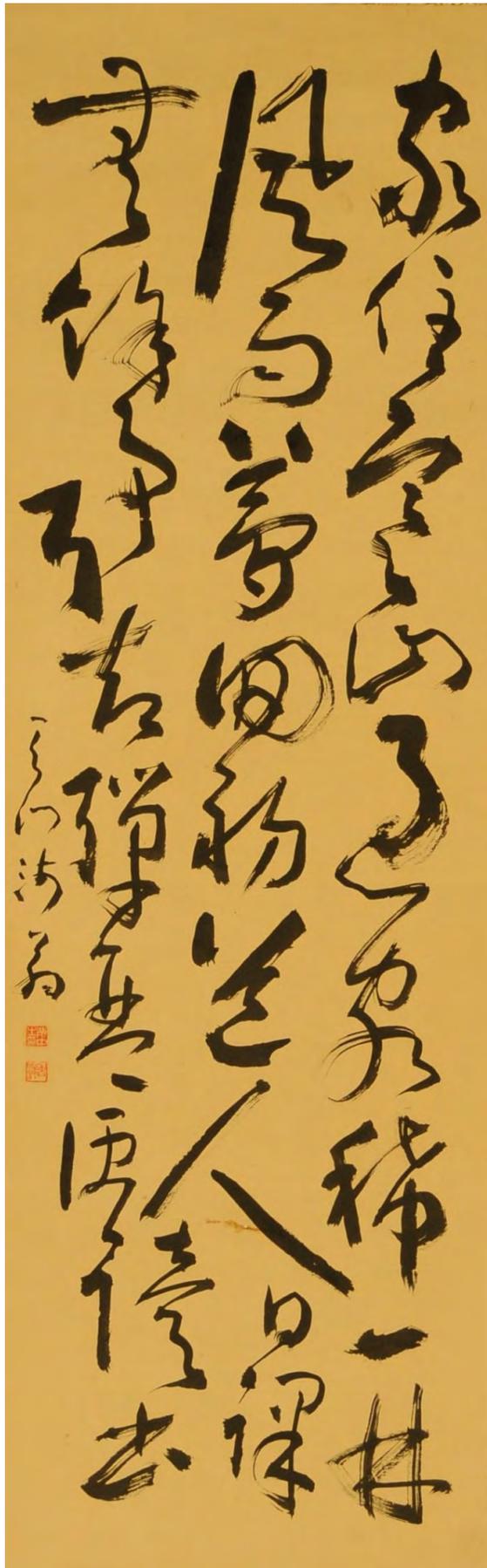


寸法 104 × 32cm

家住寒山過客稀  
一林風雨夢回初  
道人日課無餘事  
耳起彈琴便讀書  
天門海翁

家は寒山に住し過客（かきやく）稀なり。一林の風雨に夢回（めぐ）り初（そ）め、道人の日課、餘事無く、耳に起る弾琴に便（すなわ）ち書を読む  
天門海翁

制作年不明



寸法 90×28.5cm

夢  
海翁



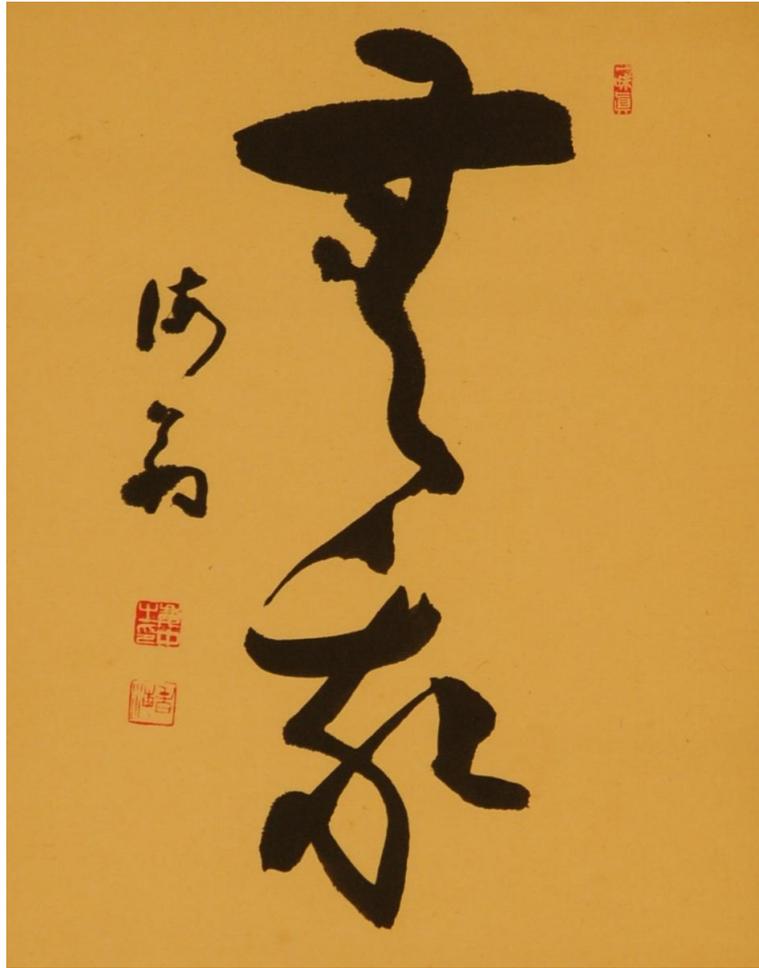
寸法 53×26cm

注

中国では夢は果無（はかな）く消える忌字  
 だが日本では、希望・輝く未来・ロマンな  
 の。の吉祥字とされる。この意で書かれたも  
 制作：箱書には昭和四十三年とあり。

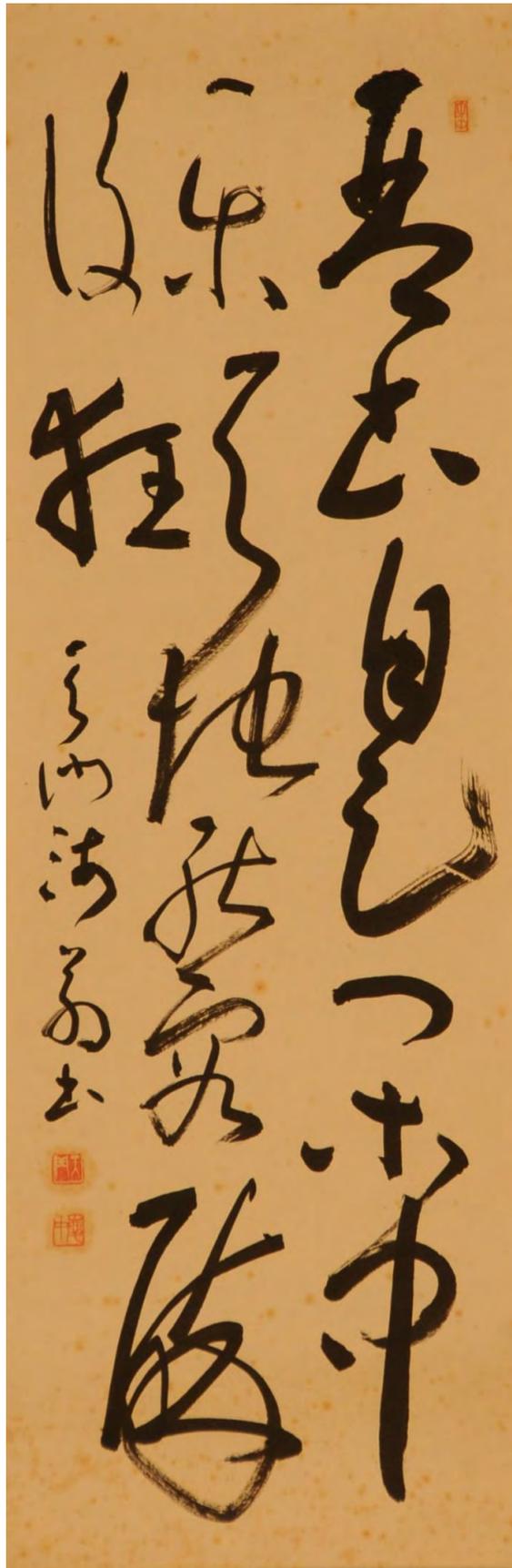
無我  
海翁

無我（むが）  
海翁



寸法 26 × 20cm

注  
自己を  
制作年  
不明  
意識し  
ない境  
地。



琴書自足閑中  
樂天地能容醉  
後狂天門海翁書

琴書自ら足りる閑中の樂、天地能（よ）く容（い）  
る醉後の狂天門海翁書す

注

琴書は風流のこと。静かな環境のもと風流  
を樂しみ、酔っては、天真らんまん、大宇  
宙に心を遊ばす。  
制作年不明

寸法 56.5 × 18cm

龍  
虎

龍  
虎（りゅうこ）

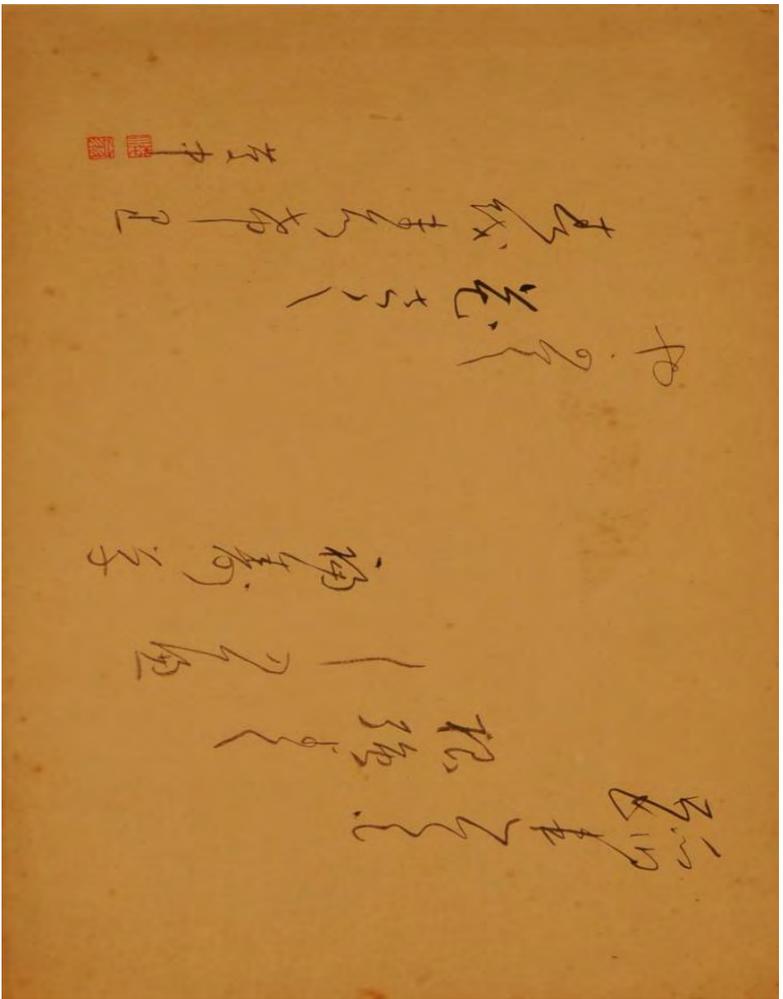
大  
書

注

龍は勢いを表す架空の動物、春海先生は  
龍どし生まれ、故に龍虎を好まれた。別  
号龍もそこからか。  
虎どし生まれ、故に龍虎を好まれた。別  
号龍もそこからか。  
制作年不明



寸法 456 × 104cm



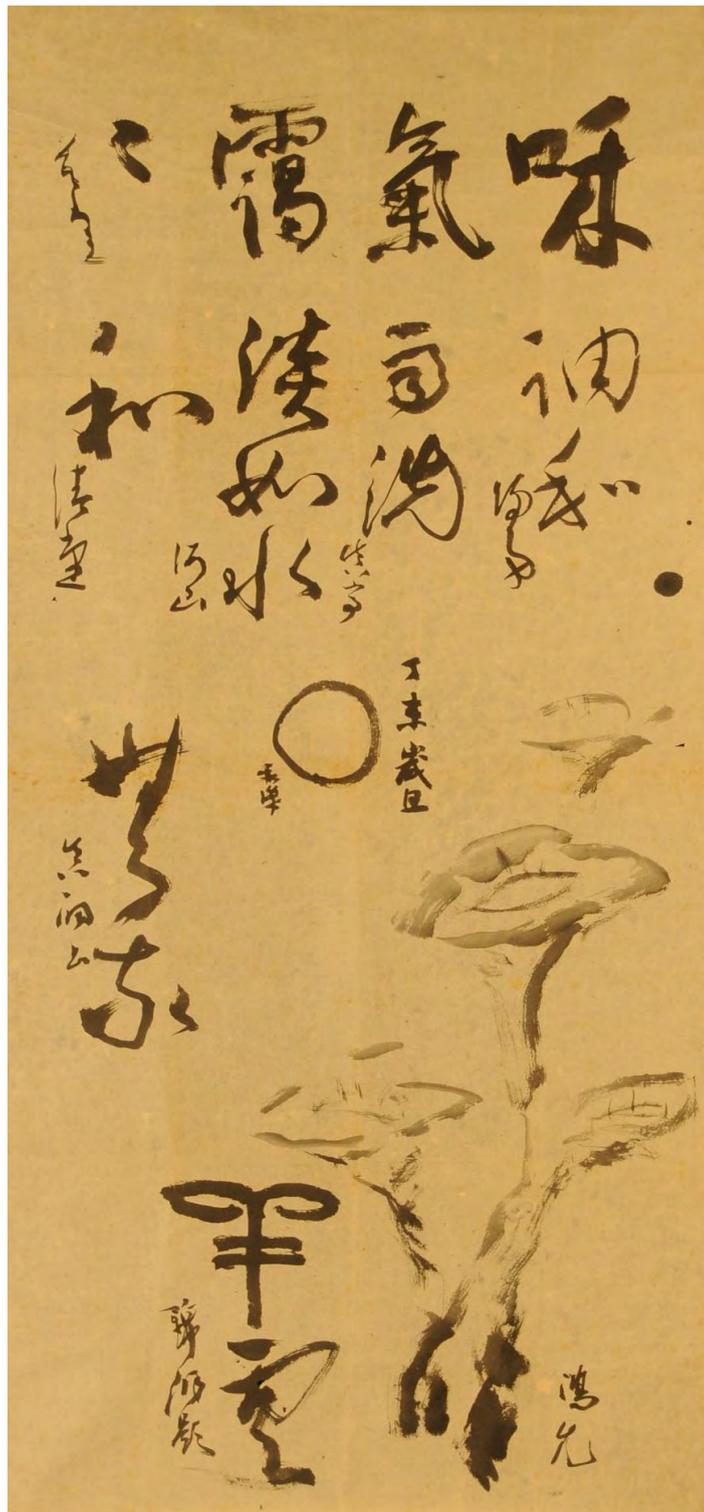
寸法 27.5 × 39.5cm

注 先生ご自作の歌と思われ  
る。「自身を福寿草に例えられたので  
はなかるうか。  
制作年不明

踏まれても 根強くしのへ福寿草  
やがて花さく 春をまら  
けり 慶中

踏連ても  
根強よく  
しの扁  
福寿草  
やがて  
花さく  
春越まら希里  
慶中

(寄せ書き)  
 和氣藹々(わきあいあい)  
 調和(帰舟)雨洗(真亭) 淡如水(海山)  
 和(清堂)  
 ○丁未歳旦 無我(真洞書)  
 靈芝図(鴻允)羊雲(錦洞題)



注

昭和四十二年元旦の寄せ書き  
 真亭||倉持真亭 海山||大月海山  
 清堂||亀井清堂 真洞||川瀬真洞  
 錦洞||林錦堂

寸法 136×62cm

豊道春海先生作品展

(東海大学附属図書館 第53回展示会)

開 催 東海大学附属図書館  
後 援 瑞 雲 書 道 会  
開 催 日 平成22年11月1日(月)~30日(火)  
場 所 東海大学附属図書館  
湘南校舎11号館図書館展示室

発行日 2010年11月1日

印 刷 事務部 印刷業務課

発行所 東海大学附属図書館

〒259-1292 平塚市北金目四丁目1番1号

TEL 0463-58-1211 (代)